

西濃農林事務所の普及活動状況（令和8年6月）

今月の重点活動

■甘長ピーマン 高温対策として遮光資材の実証を開始（6月1日～）

夏の野菜である甘長ピーマンは、近年の猛暑により尻腐れ果や日焼け果など生理障害果が多発し、収量・品質の低下を招いている。

このような状況を受け、JAにしみの海津甘長部会では「地球温暖化に適応する栽培体系転換支援事業（県単）」を活用し、4戸の農家で日差しを40～50%カットする遮光資材の実証を行っている。

6月には2戸の農家におんどとり（温湿度測定器）を設置し、ハウス内の温度変化を記録するとともに、サーモグラフィカメラや照度計も活用し、遮光による効果を調査している。

今後、残り2戸の農家でも遮光資材を張ることになっており、農林事務所では、引き続き栽培環境データを収集し、遮光資材の効果を確認していく。



【おんどとり設置ハウス】

新たな担い手の確保

■田植え体験 墨俣小学校の田植え体験を支援（6月17日）

墨俣町下宿地区農地保全向上管理組合では、地域の担い手が管理する水田において、墨俣小学校5年生の田植え体験を企画し、大垣市・JAにしみの及び農林事務所が運営支援を行った。

当日は田植機による作業実演を見学した後、児童が水田に入り、手植えによる田植え体験を行った。体験後には地元で収穫されたハツシモのおにぎりの試食や質疑応答が行われ、有意義な体験となった。農林事務所では、今後も食農教育を支援し、将来の担い手育成につながることを期待している。



【田植え体験の様子】

潜在力をフル活用した生産強化

■みかん 南濃みかん部会みかん栽培交流会（5月21日）

南濃農村環境改善センターにおいて、南濃みかん部会みかん栽培交流会が開催された。本交流会は栽培技術の習得、担い手育成、販売に関すること等自由に意見交換し、産地維持に繋げていくことを目的に月1回開催されている。

今回、農林事務所からは、肥培管理や病虫害防除について情報提供を行った。また、部会長からは、担い手育成を目的としたアグリパーク事業の取り組みについて説明があり、参加者に協力を呼び掛けた。

農林事務所では、今後もみかん産地の維持・拡大を支援していく。



【着果したみかん】

■甘長ピーマン 目揃え会を開催、本格的な出荷が開始（5月22日）

JAにしみの海津甘長部会の出荷目揃え会が、JA海津中支店で開催された。岐阜市場およびJA全農岐阜の担当者による情勢報告の後、農林事務所からは今後の気象予報、栽培管理のポイント、さらに本年度から新たに取り組むテンションメーターによるかん水管理や天敵（スワルスキーカブリダニ）を利用したコナジラミ類対策の実証について情報提供を行った。

同部会は会員数の減少という課題を抱えているが、農林事務所では甘長ピーマンの安定生産に向け、引き続き支援を行っていく。



【目揃え会】

■えだまめ 現地栽培研究会開催（5月28日）

牧園芸組合では、良質なえだまめ生産に向け、現地栽培研究会を開催した。当日は7名の生産者に加え、JA全農岐阜、JAにしみの、農林事務所が参加し、3か所のハウス栽培ほ場を巡回して生育状況を確認と情報交換を実施した。農林事務所からは、これまでの気象経過や今後の栽培管理、病虫害防除について説明を行った。

今後、収穫期を迎えるが、農林事務所は安定した品質での出荷に向け、引き続き支援を行っていく。



【ほ場巡回】

■花き 日射比例式灌水システム研修会開催（6月12日）

西濃管内の花きほ場では、経営の安定化を図るため、環境センシングを活用した日射比例式灌水システムの導入が進められている。

梅雨や高温の影響により灌水管理が難しい夏季に備え、本システムの活用技術習得を目的とした研修会が開催された。会には県内の花き生産者のほか、農林事務所、農業技術センター、関係各課、メーカーなどが出席した。研修では、最適な灌水量の確保に向けた課題とその解決策について意見交換が行われた。

農林事務所では、ハウス内環境の改善を図り、花き生産性向上を図っていく。



【研修会の様子】

新たな流通ルートの開拓、販路拡大

■ジャガイモ 湖池屋向け原料用ジャガイモの収穫開始（6月17日）

海津市の（農）のでらでは、湖池屋中部工場開設に伴い、令和7年度から海津市と連携して原料ジャガイモの試験栽培を行っている。これは、同法人に集積された畑地の維持管理を目的とした取り組みであり、令和8年産では作付面積を50aまで拡大している。

今年度は作業効率改善のため収穫機を導入し、6月17日にメーカー、関係者が見守るなか、初めて機械収穫を実施した。収穫されたジャガイモ外観も良好で、実需者である湖池屋の原料担当からも加工品質に問題ないとの評価を得ている。

農林事務所では、地域と連携しながら産地化に向けた技術支援及び経営改善支援を行っていく。



【ジャガイモ収穫作業】

安心できる農畜水産業と農村の環境整備

■有機（小松菜） 有機実証ほ収穫調査を実施（6月6日）

神戸町で取り組まれている有機農業推進プロジェクトにおいて、有機実証ほ場の小松菜が収穫時期を迎えたため、6月6日に生産者及びJA担当者とともに収穫調査を実施した。

今回は、有機栽培1年目の初作であったが、UVカットフィルムの効果もあり、害虫被害は最少限に抑えられた。単収は慣行比98%、1株重量は慣行比97%と良好な結果となった。7月には2作目の実証を予定しており、農林事務所では、有機栽培体系の確立に向けて引き続き支援を行う。



【有機実証ほ小松菜】